

令和6年度 学校評価の4点セット整理票

豊後大野市立緒方中学校

校長（内海 真理子）

（2学期計画）

【学校の教育目標】	自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成
------------------	---

【育成を目指す資質・能力】	論理的な思考力と豊かな表現力・共生力・郷土愛
----------------------	------------------------

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標 (誰が・何を・どのくらいの頻度で)	学習指導要領 が目指す 資質・能力 との関連		
						知識・技能	思考力・表現力・判断	学びに向かう力・人間性
論理的な思考力と豊かな表現力を育成する	教務部	○低学力層(30点未満)の割合、15%以下 【単元テスト・定期テスト】 ○生徒の論理的な思考力や表現力を問う問題の正答率、70%以上 【単元テスト・定期テスト】 ○授業の内容に興味関心をもつ生徒の割合90%以上	学校	学びの基礎力育成を目指す「書く」指導や計画的なドリル学習	○授業者は、単元の中に帯活動としてのドリル学習を位置付ける。 ○研究担当は 家庭学習の仕方について 学期に1回以上学習集会を実施する。	○		
				生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業	○授業者は、単元の学びを見える化した「学習カード」を単元ごとに提示し、教え合いやグループ学習ができる課題解決学習を位置付ける。	○	○	○
				ユニバーサルデザインを念頭に個別の指導計画を生かす授業	○教科担任は、授業において、 簡潔で明確な指示を心がけ、単元ごとにふり返る。 ○管理職は 授業観察に基づき、助言する。	○		○
				学校の取組や子どもの学習成果の確認	○家庭は、学期に2回以上、授業参観や学校のHP等で、学校での学びの様子や学習成果を確認し、それを生かして子どもと会話をする。			○
			地域	積極的な授業参観	○学校運営協議会委員は、学期に1回以上授業を参観し、成果と課題について学校と共有する。			○
目指す度々を育成する自己肯定感の向上	生徒指導部	○授業や学校行事等で学びの成果や課題を適切に評価できる生徒の割合80%以上 【教師アンケート】 ○目標達成に向けて、粘り強く、計画的な家庭学習を進めている生徒の割合80%以上 【教師アンケート】 【生徒アンケート】	学校	目指す自分に向かって、学びの成果や課題を発見する場面の設定	○指導者は、学級活動や生徒会活動、行事等において、活動の目標(めあて)を「目指す自分」に照らし合わせて設定させる場・振り返りの場を月1回以上設定する。			○
				学びの見通しや振り返りを生かした望ましい家庭学習の習慣化	○学級担任等は、短学活で、毎日、生徒が前日の家庭学習を振り返り、改善点を踏まえて計画を立てる時間を確保する。	○		○
				夢や希望する進路を自覚させ、自律的な取組を促す教育相談	○学級担任等は、学期に2回以上、キャリアカウンセリングの要素がある個人面接や三者面談を実施する。			○
				家庭教育力UPの5か条の徹底	○家庭は、睡眠確保のために、ゲーム・SNS・メディア等との適切な向き合い方について子どもに指導し、取組を進め、学期に1回の懇談会で情報交換をする。			○
			地域	郷土学等の学習支援	○学校運営協議会委員は、郷土学等の支援依頼に積極的に協力し、人材を確保する。			○
自他の良さや成長に向かう学びの集約	生徒指導部	○「学校が楽しい」と回答する生徒の割合、90%以上 【生徒アンケート】 ○自分や友だちのよさや成長を感じることが出来る生徒の割合、85%以上 【生徒アンケート】 ○学級や生徒会活動等で協力して課題を解決しようとする事は価値のあることだと実感した生徒の割合、90%以上 【生徒アンケート】	学校	生徒を繋ぐスマイルタイムの計画的な実践	○体育担当及び学級担任は、月3回以上の「スマイルタイム」で、FUN・FUNスポーツや人間関係づくりプログラムを実施する。	○		○
				「合唱」を軸とした成長する集団づくり	○生徒会担当及び音楽担当は、週1回の合唱の取組を生徒が主体的に展開できるように指導する。		○	○
				生徒が自分の問題として捉え・考える人権教育の実践	○指導者は、「人権」をテーマにした総合的な学習の時間のプログラムを作成し、計画に基づき実践・評価する。		○	○
				子どもの自己有用感や集団の成長を促す働きかけ	○保護者は、生徒会活動等の取組状況を参観や通信等で把握し、機会をとらえて、集団における我が子の活動等を学期に2回は褒める。			○
			地域	生徒の諸活動に対する評価を生かした自己有用感や課題解決意欲の醸成	○学校運営協議会委員は、生徒や集団の成長や課題に目を向けたコメントを学期に1回は、 直接生徒にむけて 発信する。			○